

主 訴

(保護者)

- ・落ち着きがなく、じっとしてられない。

(担任)

- ・教室での学習は担任と1対1でならでる。
- ・授業中自分のやりたいことで関わってほしい。

判 断

- ・検査結果から知的な発達の遅れは認められない。
- ・学校生活や行動面で自己コントロールや注意・集中の課題がある。
- ・課題に沿った行動が難しい。
- ・好きなことをしているときやこれができたら次にこれをすると条件を付けたとき集中できることもある。
- ・大人との関わりをたえず求めてくる。また上手に甘えてくる。
- ・「～したいけど～だからがまんする。」という社会性が十分育っていない。
- ・「授業中は勉強する」「掃除時間は掃除する」という規範ができていない。
- ・家庭では母親の言うことはよく聞く。

支援と配慮

< 通常の学級における支援 >

- ・座席の配慮：一番前の教師に近い席。
- ・個別の声かけ。本児に関わる時間を作る。
- ・計算等の指導は具体物を使う。
- ・「～をしてから」と条件をつける。
- ・遊びや体育等体を動かすことと集団の中で活動することを大切にする。
- ・清掃時は「廊下を10回拭く」等具体的に指示。
- ・母親と担任との信頼関係を作る。

< 通常の学級外の支援 >

- ・全職員の共通理解としていいことをしているところを見たときはその場でほめる。
- ・教室とは別の場所に本児の居場所を作り毎日1時間ほど1対1の支援をする。
- ・「～をしてから」と条件づけしたり「何回したら終わり」と事前に具体的に示す。
- ・担任以外で母親といつでも話が出来る担当を決めておく。

その後

新学年になって

- ・クラス替え、担任が変わる。
- ・担任と関わり：休み時間は本児を含めみんなと遊ぶ。朝の出会いを大切にする。具体的に提示する。
- ・保護者との関わり：母の仕事の関係で祖母も本児としっかり関わっておられる。

よくなったところ

- ・学習も前向きに取り組めるようになった。
- ・気持ちの切り替えが出来るようになった。
- ・クラスの一員としてがんばれるようになった。(給食当番等)
- ・自分のことは自分で出来るようになった。

課題

- ・集団登校：車道に飛び出す。班からはみ出す。トラブル。班長に頼むことに限界
- ・休み明けが不安定。
- ・トラブルがあったとき止めにはいてくれた子ともトラブルになる。

手だて

- ・集団登校に保護者が付き添い途中教師に引き継ぐ。(毎日交代で校内体制)
- ・一週間ごとに対応を検討。
- ・保護者との連携。

